

| | | | | |
|-----------|---------------------|------|----|----|
| 講義名 | 対)中国語グローバル基礎【GSP生用】 | | | |
| 担当教員 | 白根 理恵 | | | |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 火曜日 4時限 | 授業形態 | 講義 | |
| 履修開始年次 | 2年生 | 単位数 | 2 | 備考 |

| |
|--|
| 主題と概要 春学期前半は基礎文法の完全理解と発音強化を行う。 語学の基礎である初級文法の構造理解と長文を自力で正しく音読できるようにする。 基礎文法の定義は中国語検定試験4級レベルを全数しているためこの授業では4級合格が可能な授業内容となる。 学期後半は中級に向けての学習となる。具体的にはより複雑な会話教材を中心とした学習内容。 |
|--|

| |
|--|
| 到達目標 今年6月の中国語検定4級の合格ができるようになる。 それ以降は中級中国語学習のためにHSK3級合格レベルに達するようになる。 特に検定4級は初級中国語の総まとめ的な位置にあるため全員合格できるようにする。 ・オンラインでの受講では、到達目標を達成することが難しい科目であるため、オンデマンドでの開講はしない。但し、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生への対応については学校の指示に従う。 |
|--|

| |
|---|
| 提出課題 定量的問題を準備しているのでやり残しの部分を課題（宿題）として毎回提出。 |
|---|

| |
|---|
| 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック 授業内で解説するが時間的に無理な場合SNSを通じて添削済みの課題を返却する。 使用SNSはラインを予定。これにより迅速な課題提出、返却及び質疑応答も可能となる。 |
|---|

| |
|--|
| 評価の基準 平常点30%。 学期末試験70%。 平常点は小テスト（10%）、課題提出（10%）、授業態度（10%）によって決まる。 授業出席百分数が9分の1を超えたと学期末試験を受けることができない。 検定試験の合格及び出席率は評価基準に入れない。 |
|--|

| |
|--|
| 履修にあたっての注意・助言他 初級文法の構造理解は語学の基礎となるのでこれをクリアできれば中級、上級の習得が非常に楽になります。高い目標を持って頑張ってください。 授業は前回の授業内容を前提に組み立てられている。徐々に難易度が上がっていく形式なので授業を欠席すると理解できなくなる可能性が高い。 質問はできるだけ授業内にしてほしい。情報の共有という意味で自分の質問は他の受講者にとっても有益だと認識すること。 |
|--|

| | | | | | |
|-----------------------|--|--|--|--|--|
| 教科書 ・使用しない。 | | | | | |
|-----------------------|--|--|--|--|--|

| |
|-----------------------------|
| プリント資料及び参考文献 特になし |
|-----------------------------|

| |
|--|
| 授業計画 1 存在文の有在。所有の有についてのまとめ。声調発音練習。 2 できる表現 能、会、可以の相違。声調発音練習。 3 総数文 100以上の数字とお金の単位。声調発音練習。 4 結果補語と方向補語。声調発音練習。 5 前置詞の用法と前置詞のまとめ。巻き舌発音練習。 6 時量補語と時間副詞の扱いについて。巻き舌発音練習。 7 状態持続の着と進行の在の扱いについて。有無気音の発音練習。 8 複合補語と一的。有無気音の発音練習。 9 近未来の表現。い、ngの発音練習。 10 存現文 可能補語。い、ngの発音練習。 11 使役文。い、ngの発音練習。 12 受け身文。地文による発音練習。 13 動量補語、時量補語、数量補語と了の関係について。 14 連体修飾語的応用。長文読解。 15 連用修飾語地の用法。長文読解 |
|--|

| |
|--------------------------|
| 授業形態（アクティブ・ラーニング） |
|--------------------------|

| | |
|--------------------------------------|--|
| ア：PBL（課題解決型学習） | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| ウ：ディスカッション、ディベート | エ：グループワーク |
| オ：プレゼンテーション | カ：実習、フィールドワーク |
| キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） | |

| |
|---|
| 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 毎回定量的問題を準備しているがやり残しの部分を課題（課題）として提出。 単語、漢字、復習等は各自が基本。 毎回の授業に関しては少なくとも4時間弱の準備学習が必要。 |
|---|

| |
|--|
| 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 この科目は2年生から履修可能な外国語関連科目で、中国語の語学力の向上を図るとともに、グローバルの視点から海外の社会や文化をより広く深く学ぶことができます。 |
|--|

| |
|-------------------------------|
| 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述 |
|-------------------------------|

| |
|--------------------|
| 実務経験の有無及び活用 |
|--------------------|

| |
|---|
| 備考 教科書は使用しない。 毎回学習プリントを配布する。 |
|---|